

## 安静心電図

**検査の目的** 心臓の拍動によって発生する電気活動を記録して、不整脈の有無や種類を調べたり、心臓の筋肉の働きを調べたりする検査です。

**検査の方法** 両手首・両足首と胸部に電極を装着します。検査に痛みは伴いません。

**検査時間** 約5分  
(必要に応じて長めに記録する場合は10～15分)

- 手足の力を抜き、出来るだけリラックスした状態で検査を受けてください。
- 記録中は動いたり、胸が動くような大きな息はしないようにしてください。



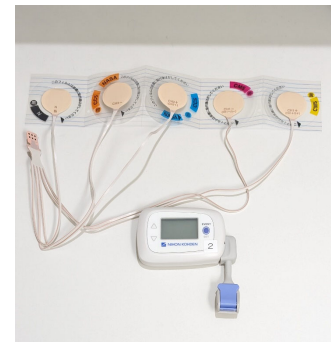
## ホルター心電図

**検査の目的** 24時間の心電図を記録して不整脈、薬の治療効果、自覚症状の原因などを調べる検査です。

**検査の方法** 胸部に使い捨て電極を装着し、腹部には小型の記録器を取り付けて検査を行います。記録中には行動記録カードの記入をお願いしています。

**検査時間** 24時間

- 電極・固定用のテープにかぶれる場合があります。皮膚の弱い方はお申し出ください。
- 記録中は電極装着部位を触らないようにしてください。
- 装置は非耐水性のため、記録中の入浴や大量の発汗を伴う運動などはお控えください。
- 携帯電話、電気毛布などの使用に制限があります。
- 装置の取り外しの際には、ご記入いただいた行動記録カードを忘れずにお持ちください。



# ホルター心電図

## 検査の流れ

1日目

取り付け

- 検査室にお越しいただき、装置を装着します。
- 記録中の注意点などもご説明します。

約10分

記録

- 帰宅後は入浴や大量の発汗を伴う運動などを除き、通常通りお過ごしください。
- お渡しした行動記録カードに、ご帰宅後の行動内容、自覚症状（動悸、息切れなど）を記載してください。

24時間

2日目

取り外し  
結果確認

- 記録終了時間になりましたら検査室にご来室頂き、装置の取り外しを行います。
- 記録した結果を確認後、検査終了となります。

5~10分

# ABPM

## 検査の目的

24時間を通して血圧の変化を記録し、血圧の日内リズムや短期間での血圧変動性を分析する検査です。

## 検査の方法

- 上腕に血圧を測定するカフを巻き、小型の血圧計を入れた携帯用ホルダを肩から下げた状態で検査を行います。
- 血圧測定時にカフが加圧されるため、若干の痛みを感じる場合がありますが、危険性はなく安全な検査です。

## 検査時間

24時間

- 基本的な検査の流れはホルター心電図と同様です。
- 就寝中も含め30分ごとに血圧を測定します。可能な限り測定中は腕の力を抜き、動かさないようにしてください。
- 行動記録カードには、就寝時刻と起床時刻を忘れずに記入してください。
- 入院中の場合でも装置の取り外しは必ず検査室で行います。



## 加算平均心電図（LP）

**検査の目的** 心電図波形をいくつも重ね合わせて平均することによって、通常の安静心電図では検出できない、より細かな電気波形を記録する検査です。重篤な不整脈が起これやすいかどうかを確かめることができます。

**検査の方法**

- 上半身の衣類はすべて脱いだ状態で検査を行います。
- 電極の接触抵抗を下げるために、胸部・背中の電極装着部位は皮膚前処理剤を用いて肌の角質などを除去し検査を行います。（皮膚の弱い方はお申し出ください。）

**検査時間** 約30分（検査時間は前後する場合があります。）



- 記録中は動いたり、話したり、胸部が動くような大きな息はせず、体の力が入らないようリラックスしてください。
- 検査時間が長くなる場合がありますので、あらかじめお手洗いは済ませておいてください。

## 血圧脈波（ABI）

**検査の目的** 両上腕・両足首の血圧を測定し、血管の硬さやつまり具合を調べる検査です。

**検査の方法**

- 両上腕・両足首に血圧を測定するカフを巻きます。（締め付けの強い衣類は脱いでいただく場合があります）
- 四肢には心電図電極を、胸部には心音を検出するマイクを装着します。
- 四肢の駆血により多少の痛みを伴いますが、危険性はなく安全な検査です。

**検査時間** 約30分

- 腕に透析用のシャントがある場合や、その他の理由で血圧測定ができない場合は事前にお申し出ください。
- 血圧を安定させるため、10分ほど安静にしていただいでから検査を行います。
- 検査中は動いたり、声を出したりしないでください。



## マスター運動負荷試験

**検査の目的** 安静時では認められない心筋虚血や不整脈などが、階段の昇降による運動負荷によって誘発されるかを調べる検査です。

**検査時間** 15～30分



- 運動のしやすい服装でお越しください。
- 階段の昇降が難しい方、運動による息切れや胸痛が発生しやすい方などは、検査前にお申し出ください。また、普段胸痛出現時に服用しているお薬などがありましたら、ご持参ください。

## マスター運動負荷試験

### 検査の流れ

検査前

可能な限り、上半身の衣類・靴下を脱ぎ（負荷終了直後、速やかに心電図電極の取り付けを行うため）運動しやすい状態になっていただきます。

安静時

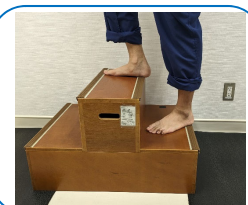
はじめに通常の安静心電図を測定します。

負荷中

規定の時間（1分30秒 or 3分 or 4分30秒、検査オーダーにより異なります）装置から鳴るリズム音に合わせてマスターの2階段（右図）を昇降していただきます。

負荷後

- 負荷終了直後は速やかにベット上に移動し、仰向けの状態で力を抜いてください。そのまま6～9分ほど心電図を記録していきます。
- 負荷中・負荷後に胸痛、息切れ、下肢や全身の疲労、めまいなどの症状がなかったかお伺いします。



# トレッドミル運動負荷試験

**検査の目的** 安静時では認められない**心筋虚血**や**不整脈**などが、運動負荷によって誘発されるかを調べる検査です。

**検査の方法**

- この検査は**医師の付き添いのもと実施**します。
- 心電図・血圧・経皮的酸素飽和度を測定しながら、ベルトコンベア状の装置上を走行していただき、経時的に速度と傾斜角度を変化させ、心臓に負荷を加えていきます。
- 運動中は自覚症状の有無を確認しながら検査を行います。

**検査時間** 約30分

- 運動のしやすい服装でお越しください。
- 運動負荷中は転倒に十分注意し、何らかの症状があった場合や、負荷の継続が困難な場合には速やかにお申し出ください。

